

慶應義塾大学大学院 文学研究科 後期博士課程

美学美術史学専攻

3つのポリシー

【ディプロマ・ポリシー】

美学美術史学専攻では、課程修了時に大学院生が身につけるべき能力として以下のものを定め、学則に従って修了条件を満たし、博士論文審査に合格した学生についてはこの能力を身につけた者と認め、博士（美学）の学位を与える。

1. 美学美術史学専攻において定められた博士論文執筆資格審査に合格した上で、美学、芸術学、美術史学ならびに音楽学等、美と芸術に関わる学術研究を内容とする博士学位請求論文を原則として日本語で執筆し、その論文を通じて、当該領域の研究に独創的な寄与を成し、その発展に大きく貢献できる。
2. 研究対象とする分野において、最新の研究動向や研究課題に精通し、包括的で深い専門知識を有し、日本語あるいは外国語で国際的に成果を発信してその分野の研究に独自の貢献ができる。
3. 研究対象の文化的、歴史的、地理的特性を深く理解し、発見した課題を解決していくための高度なリサーチ能力、プレゼンテーション能力を身につけることで、積極的に学術交流し、異文化リテラシーを備えた社会人として国際社会に独自の貢献ができる。

【カリキュラム・ポリシー】

美学美術史学専攻では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として以下のカリキュラムを編成する。

1. 美と芸術に関わる学術研究に独創的な貢献をする博士論文の執筆を可能とするため、指導教員が担当する特殊研究科目を中心とした履修を行うとともに、指導教員が中心となって個別論文指導を行い、高度なリサーチ能力と課題発見能力、さらに課題に対する洞察力・解決能力を養う。
2. 博士学位取得のためには、学生は専攻・分野が定めた博士論文執筆資格審査に合格し、指導教員の許可を受けた上で学位請求論文を文学研究科委員会に提出して受理される必要がある。さらにその後1年以内に、文学研究科委員会で承認された主査および副査によって論文が審査され、文学研究科委員会に報告された審査報告に基づき、文学研究科委員全員の投票によって合格しなくてはならない。

3. 専門とする領域において最新の研究動向や研究課題に精通し、専門的研究を通じて独自の貢献をするために必要な高度なリサーチ能力、課題発見能力、一次資料分析能力、論理構成力を養成するため、特殊研究科目を設置する。博士課程の全在学期間を通じて履修可能な少人数演習科目を設置し、その履修を修了要件とする。研究成果を学会や専門誌で発表できるように具体的な指導を行う。
4. 個別の専門的研究を国際的かつ独創的に展開し、高度な異文化リテラシーを身につけることを補助するために、学内外の各種留学制度等を活用した、海外の大学院等への留学を推奨する。特に研究する対象に応じた地域への留学を強く勧める。また、文学研究科独自の支援制度により留学を援助する。
5. 海外への留学をはじめとし、より柔軟な履修を行えるように、全ての科目は半期科目として開講する。
6. 研究分野のより専門的な研究を可能とするために、海外の大学院への正規留学によって取得した単位を、単位数を限って修了要件に含めることを認める。
7. 博士課程の大学院生の高度に専門的な研究を推進するために、海外の著名な研究者に副指導教員としての指導を依頼し、文学研究科委員の指導教員との共同指導のかわりで博士論文を準備することができる。

【アドミッション・ポリシー】

美学美術史学専攻後期博士課程では、次のような資質を持つ学生を求めている。

1. 自分の研究領域および関連分野について、高度な専門的知識を持っている。
2. 修士課程における専門的研究をふまえて、博士論文につながる独創性のある具体的な研究計画を自ら考え、原則として日本語でまとめることができる。
3. 研究対象に関係する各種文献、ならびに研究対象の一次および二次資料を正確かつ批判的に読むことができる分析的な読解力、独創的な学術的論考を緻密に展開できるアカデミック・ライティングの能力を身につけている。
4. 研究対象となる資料を多角的に講読するために不可欠な、外国語の能力を有している。
5. 博士課程修了後の研究者、教育者、実務家としてのキャリアについて、積極的かつ具体的に考えている。